

認証評価結果に対する改善報告書

平成 28 年 7 月 15 日

1. 大学名：武蔵野学院大学

2. 認証評価実施年度：平成 27 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

国際コミュニケーション学科の収容定員に対する在籍者数が未充足であるため、入学者の定員確保に向けた早急な改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1 について

(改善の経過)

収容定員の充足に沿った適切な学生数を維持する為に、下記の通り学部学科の実状に応じた改善を図り、現在も継続中である。

国際コミュニケーション学部コミュニケーション学科

平成 25 年度から学生募集の強化を図り、広報活動、高校訪問、入試制度の改革を行い継続的な取り組みが進行している。また、平成 28 年度には、教育課程の改編を行い、言語コミュニケーション科目の英語関連科目に、新たに 6 科目を必修科目として加え、英語力向上のカリキュラムとし、英語を学びたいとする受験生のニーズに対応することとした。

ア、学生募集の強化

平成 16 年度の大学開学以来、系列である武蔵野高校からの内部進学者の本学入学に占める割合が過重で他の高等学校への募集活動や広報活動は皆無であった。系列である武蔵野高校としても学生募集の観点から外部の大学への進学指導に傾注せざるを得なくなり、本学への進学者が激減した（資料①）。

こうした状況を踏まえ、最優先事項は内部進学者以外の募集活動や本学の広報活動の強化であるとして様々な対策に取り組んだ。具体的にはセンター入試の開始や入試形態の多様化（AO 入試、指定校推薦入試、推薦入試、一般選抜入試、センター試験利用入試）及び WEB 出願の導入（資料②4 頁）を行った。

学生募集担当教職員による各高等学校訪問の強化（地元、埼玉県を含む関東地域のみならず、長野県、新潟県、福島県、宮城県、岩手県等への高校訪問）（資料③）、外部説明会の積極的参加、西武鉄道への車内広告掲載（資料④）、学生の通学の便となる大学のバスの増便（大学と西武線の狭山市駅と稲荷山公園駅のスクールバスの運行に加えて大学と JR、東武東上線の川越駅の便を設けた）等を行った。

平成 29 年度の入試からは特待生入試の実施、一般入試の試験科目の見直し（他大学と

併願受験しやすい様に「小論文」を「国語総合」に変更（資料②9頁、11頁）を行い受験生の便宜を図ることとした。

イ、教育課程の改編

平成 28 年度より教育課程の改編を実施し、現在学年進行中（1 年次）である。

改編の教育課程は専門科目の言語コミュニケーション科目に Communication English Skills 1、Communication English Skills 2、Communication English Skills 3、Communication English Skills 4、Communication English Skills 5、Communication English Skills 6 を新たに設け、必修科目とした（資料⑤）。旧来の教育課程では、これに関連する科目を選択科目と位置づけ、学生の自主的な科目履修の意欲に任せているが、英語力、特に会話力に特化した科目を必修とすることで国際コミュニケーション学部に対応しい英語の実力が身に付けられるカリキュラムとし、学生募集における本学が目指す教育の目的を明確化しアピールすることとした。

また、教育課程で開講する英語の授業以外にもモチベーションの高い学生に対しては、英語の特別プログラムを行うこととした。平成 28 年度より開始したのが AMUSE (Academy of Motivated Undergraduate Students of English)（資料⑥）と名付け、ビジネスや海外旅行などの様々な場面で英語コミュニケーション能力を存分に発揮できる学生を育てることを目途にネイティブの教員による指導を行っている。この講座を受講した学生には TOEIC の受験料の補助や海外研修（アメリカ、カナダ、中国の大学における 3 週間の語学、異文化学習）参加の奨学金への優遇等の特典を付与する。

この様な取り組みを受験生に周知することによって本学国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科の関心が高められるように工夫している。

（結果）

平成 28 年度の入試においては、系列の武蔵野高校からの内部進学者が減少するなかにあつて、3 年ぶりに総受験者数が 100 名を超え改善の兆候を示した（資料①）。

学生募集の強化を継続的に図っていくことと同時に、英語力向上を目途として改編した教育課程が学年進行中であることから現時点において収容定員の充足率の改善状況を完成した形で示す段階でないものの、平成 28 年度に入学した学生の英語に取り組む姿勢には真剣さがみられる。

今後、現在取り組んでいる改善の方策を着実に実行することで、学習の成果を向上させ、これを広く社会に情報発信することで収容定員の充足率の改善を図っていきたい。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

資料①国際コミュニケーション学部の過去 5 年間の入学志願状況

資料②2017 年度学生募集要項

資料③地方（岩手県・宮城県・福島県・長野県・新潟県）高校訪問数

資料④西武鉄道車内広告（2014 年度代表例、2015 年度代表例）

資料⑤武蔵野学院大学学則 別表 1

資料⑥AMUSE 資料